



カエンコイ2プロジェクト(タイ)

当社は海外発電事業を、国内卸電気事業に次ぐ「第2の柱」とすべく、タイを中心とする東南アジア、米国、中国を重点市場として、プロジェクトを厳選しながら推進しています。2009年6月末時点で投融資総額は900億円程度となり、稼働中のプロジェクトは6カ国／地域で23件、持分出力で約310万kWまで積み上がりました。

具体的な経験を積み重ねることによって徐々に投資対象・規模などを拡大しつつあり、タイ国において2007年度に落札した大規模ガス火力2件(計320万kW)*1については、マジョリティを確保してプロジェクトを主導していく予定です。

適切な投資管理の実施により(下記コラム参照)、リターンも着実に増大してきており、2008年度には持分法投資利益で約78億円を計上しました。

5カ年の経営目標期間中に約2,500億円の投融資支出*2を行い、2012年度には持分出力(営業運転中)を現在の約1.5倍の450万kW程度まで拡大する計画です。利益貢献については、2010年度には100億円規模に達する見込みであり、その後も既設プロジェクトの安定操業および新規プロジェクトの積み上げによって、この水準の維持・拡大を目指します。

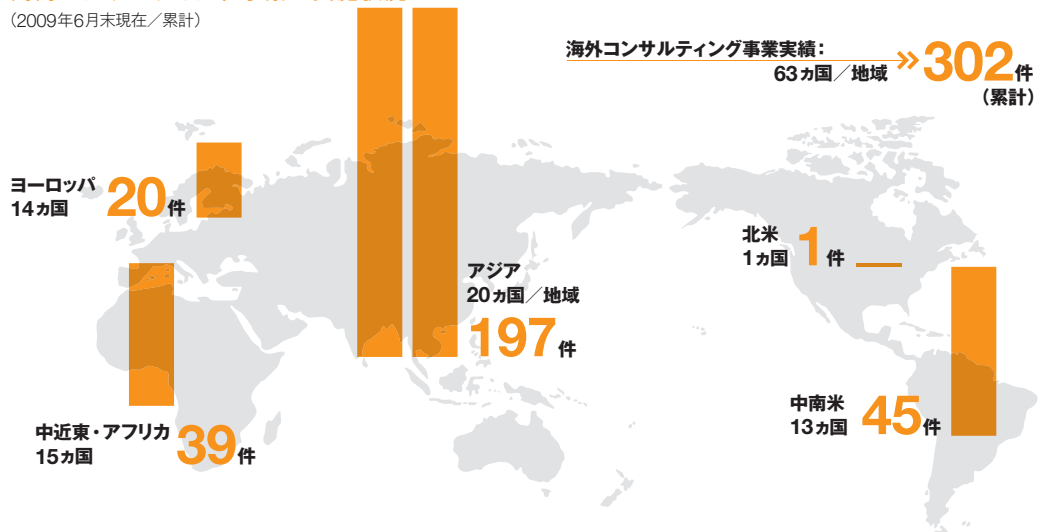
*1 サメツタイ地点: 出力160万kW、2013年運転開始予定。

ノンセン地点: 出力160万kW、2014年運転開始予定。

*2 当社のエクスポージャーはプロジェクトの資本金相当額に出資比率を乗じた金額に限定(直接拠出する金額は約900億円を予定)。

海外コンサルティング事業の実施状況

(2009年6月末現在／累計)



プロジェクトの組成、評価と管理

新規プロジェクトに参画する場合、当該国の電気事業制度や国情全般、燃料種別、電力販売契約と販売先の信用力、送電インフラの整備状況などを入念に調査します。またプロジェクトファイナンスの利用を原則としており、リスクシェアリングを前提としたプロジェクトの組成にあたって、レンダーとなる金融機関のレビューも受けて、技術・ファイナンスの両面で合理的な事業設計を常に目指しています。

個別プロジェクトの評価は、社内にて制定する投資評価ガイドラインに基づき、社内各部門による多角的な検討を経て最終判断がなされます。具体的には個別プロジェクト毎に、事業期間・商業リスク・カントリーリスクなどを総合的に評価して、資本コストを反映して個別に算出される所要リターンレートとプロジェクトのIRRを比較し、投資の適否を判断します*3。

参画後は、定期的なモニタリングの対象となり、個別プロジェクトの状況、とりわけ稼働率や採算性の変化などを中心に審査します。

*3 社内の審議プロセスの詳細は、P.32「海外事業等の実施を決定するプロセスと管理の体制について」をご参照ください。

当社が参画している海外発電プロジェクト

(2009年6月末現在)

営業運転中のもの

国・地域	プロジェクト名	発電形態
アメリカ	テナスカ・フロンティア エルウッド・エナジー グリーン・カントリー バーチウッド バインローン エクウス フルヴァナ エッジウッド ショーハム	ガス(コンバインドサイクル) ガス(シンプルサイクル) ガス(コンバインドサイクル) 石炭 ガス(コンバインドサイクル) ガス(シンプルサイクル) ガス(コンバインドサイクル) ガス(シンプルサイクル) 石油(シンプルサイクル)
フィリピン	CBK	水力
中国	てんせき 天石 漢江(喜河)	ボタ火力 水力
タイ	ロイエット ラヨン タイオイルパワー インデペンデントパワー ガルフ・コジェネ(カエンコイ) サムットプラカン ノン・ケー ヤラ カエンコイ2	バイオマス(モミ殻) ガス(コンバインドサイクル) ガス(コンバインドサイクル) ガス(コンバインドサイクル) ガス(コンバインドサイクル) ガス(コンバインドサイクル) ガス(コンバインドサイクル) バイオマス(ゴム木廃材) ガス(コンバインドサイクル)
台湾	チアファイ 嘉恵	ガス(コンバインドサイクル)
ポーランド	ザヤツコボ	風力
合計	6カ国・地域	23件

建設中のもの

国・地域	プロジェクト名	発電形態
タイ	サメッタイ ノンセン	ガス (コンバインドサイクル) ガス (コンバインドサイクル)
中国	漢江(蜀河) 新昌	水力 石炭
ベトナム	ニヨンチャック2	ガス火力 (コンバインドサイクル)
合計	3カ国・地域	5件

海外発電事業展開

■ 営業運転中
□ 建設中

